

2週間気温予報（概況）

北日本の気温は、向こう2週間は平年並か低い見込みです。特に、北海道地方では、向こう1週間程度は、強い寒気が流れ込んで気温がかなり低くなる日もある見込みです。農作物の管理などに注意してください。

東・西日本の気温は、向こう1週間は平年並か低く、かなり低くなる日もありますが、その後は気温が高くなり、気温の変動が大きい見込みです。特に、17日頃からは暖かい空気が流れ込んで、気温がかなり高くなる可能性があります。農作物の管理や、積雪の多い傾斜地ではなだれに注意してください。

沖縄・奄美では、今後2週間は暖かい空気に覆われて気温は高く、かなり高くなる可能性もあります。農作物の管理などに注意してください。

2週間先までの天候に関する解説のポイント**●気温の変化傾向と要因**

- ・北日本は、極渦の南下に関連した強い寒気の流れ込みにより向こう1週間程度は低温で、北海道地方を中心にかなり低くなる日もある見込み。
- ・東・西日本は、向こう1週間は寒気の影響で平年並か低い日が多く、低気圧の通過後は低温となる日もある見込み。その後は偏西風が北に蛇行し暖かい空気に覆われやすく、後半ほど高くなる見込み。
- ・沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすく、向こう2週間気温が高く、沖縄地方を中心にかなり高くなる見込み。

●大気の流れの見通し

- ・向こう2週間、東シベリアの北極海沿岸でリッジが発達、その南にあたるオホーツク海に極渦のひとつが位置する状況が続く予測。850hPa気温では、北日本は2週目はじめにかけて負偏差で、週間予報資料では目先と13～14日頃に負偏差の極大が予測されている。なお、2週目後半は偏西風の北への蛇行（次項）により北日本でも高温偏差の予測であるが、極渦がオホーツク海付近に位置する状況は続き、北海道のすぐ北には850hPa気温の偏差ゼロ線があり、北海道地方では高温となるか不確実で、平年並と見込む。
- ・一方、亜熱帯ジェット気流は、チベットの南で南に蛇行、日本付近で北に蛇行し、主に東日本以南の高温に寄与する見込み。ただし、1週目は、前項の極渦の南下と関連した北からの寒気の流れ込みの影響も重なり（低温に寄与）、東・西日本付近の気温は平年並か低くなる予測となっている。2週目は、極渦の南下の影響が弱くなり、東日本以南では高度・温度場とも上昇する予測となっている。一方、華南～沖縄・奄美では、亜熱帯ジェット気流の北への蛇行により、明瞭な高温偏差が続く予測。
- ・海面気圧では、2週目にかけて、東シナ海の30°N付近から本州南岸が相対的に低い予測（等圧線の形状、日本の南東海上の正偏差の極大などの偏差分布を参照）で、東日本以南では冬型の気圧配置は長続きせず、低気圧や前線が通過しやすいことが見込まれる。

●前回の早期天候情報検討時の見通しとの違い

- ・大気の流れの見通しはほぼ同じ。ただし、2週目は亜熱帯ジェット気流の北への蛇行の程度が強まり、東・西日本の高温傾向が強まった。

○最新の2週間気温予報は、

<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/twoweek/>

を参照してください。

この資料は、気象事業者等が気象庁の提供する2週間気温予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。